

指定管理者による公の施設の管理運営状況(令和4年度分)

施設名	群馬県青少年会館	所管課	教育委員会生涯学習課
指定管理者名	(公財)群馬県青少年育成事業団	指定期間	5年
利用料金制	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 一部導入 <input type="checkbox"/> なし		R2.4.1 ~ R7.3.31

※利用料金制とは施設の利用に係る料金を指定管理者の収入として収受させる制度。「一部導入」は利用料金制を導入しているが指定管理料を支出している施設

1 施設の概要

施設所在地	前橋市荒牧町2番地12
指定管理業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県青少年会館の管理及び運営 ・青少年健全育成事業の実施

2 職員の状況(令和4年4月現在)※主に指定管理業務に従事する職員数

通常(フルタイム)の職員:	7人		
短時間雇用の職員:	1人	合計:	8人

3 収支の状況(令和4年度決算額)

(円)

収 入		支 出	
指定管理料	67,773,000	人件費	47,096,137
利用料収入	1,644,342	委託料	4,454,133
その他(事業参加者負担金収入)	62,000	光熱水費	6,557,391
自主事業収入	979,678	租税公課費	4,725,619
その他	18,602	その他(管理運営費等)	6,664,664
		自主事業支出	979,678
収入合計	70,477,622	支出合計	70,477,622

※指定管理者の指定管理業務等及び自主事業に係る収支を記入(指定管理者団体全体の収支ではない。)

4 利用の状況

	令和4年度(実績)	(参考)令和3年度(実績)	(参考)令和2年度(実績)
①年間利用者数(人)	21,748	14,467	14,873
②使用料収入(円) (県納付額)	-	-	-
③利用料収入(円) (指定管理者収受額)	1,644,342	2,715,805	3,339,835

5 施設における実施事業の状況

事業・イベント名	開催日	参加者数	内容	参加者の感想等
子どもふれあいワークショップ	2/25	15人	<p>【目的】子どもの居場所に関わっている(または関心のある)青年を対象に、子どもへのよりよい関わり方や距離感を学び、地域活動に積極的に関わる人材を養成する。</p> <p>【内容】指導力向上を目指した講義及びワークショップ等の演習、情報交換・交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育や体験活動の意義、その手段として身近な素材を活用できることを伝えることができ、参加者にとって有意義なプログラムを提供することができた。 ・ワークを行いながら実体験をするように学びを深めることができた。 ・子ども同士のトラブルやけんかの時の話し合いや解決法等、関わり方を学びたい。 ・子どもとのコミュニケーションの取り方、距離の取り方を高めたい。 ・自己肯定感を高める見守り方についてスキルを高めたい。
中学生・高校生交流ボランティア体験	1/28・1/29	8人	<p>【目的】中高生にボランティア活動を学ぶ機会を設けるとともに、活動の実践を通して互いの交流を深める機会を提供する。</p> <p>【内容】ボランティアに関する基礎的知識の習得、ボランティアの実践、参加者同士の交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活では、体験できない貴重な体験をすることができてよかった。また、これを機会に今後様々な活動に参加したいと思った。 ・小さい子と関わることがあまりなかったのも、とてもよい経験になった。実際、私は子どもと関わる仕事に興味があったので、将来の職業へのビジョンが明確になった。
体験活動・ボランティア活動支援センター	通年	8人	<p>【目的】青少年及び指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする学校や青少年団体との連絡調整を行い、協働の機会を設ける。</p> <p>【内容】ボランティア活動に関する情報収集と提供、活動希望者と希望者を受け入れる学校や青少年団体との連絡調整</p>	<p>団体創設の相談(初の事例)に関わり、これまでのネットワークを生かした支援を行うとともに、活動の場を提供することができた。</p>
ふれあい・ゆうあい交流フェスタ	<p>実行委員会 第1回 6/24 第2回 8/17 第3回 9/28 第4回 11/2 第5回 1/18</p> <p>パネル展示 1/18から1ヶ月間</p>	実行委員会参加者延べ34名	<p>【目的】障がいのある人とない人がともにふれあい、ともに活動・交流する楽しさを体験するため、障がいを抱える子ども及びその保護者や支援団体、青少年団体、ボランティアと「心のバリアフリー」をテーマに活動する。</p> <p>【内容】障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整、実行委員会組織の設置、コロナ禍における「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」のあり方検討 ※コロナ禍における小規模開催を試みたが、感染状況を踏まえ、パネル展示のみとした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員でフェスティバルの代案について検討を重ね、障がいのある子ども達の団体活動や青少年団体の取り組みを伝えるパネル展示を開催し、令和5年度開催に向けた足がかりができた。
親子ふれあい体験教室	7/23	24人	<p>【目的】親子の共同作業を通して、親子や参加者のふれあいを深める。また、レクリエーションにより、参加者の交流を図る。</p> <p>【内容】親子で一緒に木工作業、制作作品の紹介、参加者と青少年団体とのレクリエーションによる交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、子どもと何かを一緒に作る機会が無いので、良い経験だった。子どもが思ったよりも積極的に作っていたので、嬉しかった。 ・日頃、木材に触れる機会が少ないので、このような機会をいただき、大変有意義だった。 ・事前にアイデアを考えたものの、実際に始めると思い通りにならず難しかったが、親子で考えながら作業するのは楽しかった。

高校生写真講座	9/10	36人	<p>【目的】写真の知識や技能を高める学びを提供する。また、班活動による撮影や組写真の制作と発表を通して参加者の交流を図る。</p> <p>【内容】写真撮影を通しての交流、デジタルカメラの基礎知識・技術の習得、グループワークによる組写真の制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は個人活動が多いため、仲間と協力する経験は貴重だった。 ・組写真のテーマを決めることにより、統一感を出すだけでなく、作品のイメージや物語をつくることもできていることに感動した。 ・自分たちでは気付くことができない視点からアドバイスを頂き、撮影技術の向上につながると感じた。
青少年団体活動支援事業	通年	<p>【宿題お助け隊】 39人</p> <p>【おやこで茶道教室】 32人</p> <p>【君の飛行機はどこまで飛ぶ!?】 34人</p> <p>【ボランティアのつどい】ボランティア 30人 児童33人</p>	<p>【目的】各青少年団体と連携し、子どもの課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の特性を生かして体験活動の提供と高校生のボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。</p> <p>【内容】青少年団体の情報収集、青少年団体の事業支援、青少年団体と共催事業の開催、群青連協加盟団体に担当配置</p>	<p>【宿題お助け隊】 楽しく宿題や体験活動に取り組みめた等の意見が多かった。ボランティアとの交流が有意義だったことがうかがえる。</p> <p>【おやこで茶道教室】 親子で一緒に参加できて良かったです。息子のたてたお茶が飲めて嬉しかったです。</p> <p>【君の飛行機はどこまで飛ぶ!?】 久しぶりに大人数での活動だったが、異年齢交流は子ども達にとって良い経験になることを改めて確認できた。</p> <p>【ボランティアのつどい】 参加する子ども達のことを考えながら準備したり、事業準備の大切さを学ぶことができた。</p>
ぐんま青少年ねっと	通年	<p>【学習・ワークスペース利用者】 84人</p> <p>※5月から再開</p>	<p>【目的】Web・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信する。また、会館利用者がインターネットを利用できる環境を整え、青少年の自己学習や情報収集を支援する。</p> <p>【内容】会館運営、事業開催情報の提供、Web等の管理・更新作業、事業・利用に係る通信環境、データベース等の管理と運用</p>	<p>Twitter を開設し事業と会館の様子を中心に発信するとともにFacebookとブログを年間50回以上更新した。</p>
(参考)自主事業	青少年会館友の会育成事業	<p>会員数 36名(成人、大学生、高校生)</p> <p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師依頼への協力 「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」(県生涯学習センター)成人会員5名(講師等) ・自主企画 「クリスマスリースづくり」成人会員1名(講師) 「ゆめすくーる2022」全4回 参加大学生会員延べ89名 	<p>外部講師依頼への協力「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」児童・保護者24名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子、友達で楽しい時間が過ごせた。もっといろいろな種類のバルーンを作りたい ・自分たちの活動で親子に喜んでもらえた <p>自主企画「クリスマスリースづくり」児童・保護者等8名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リースに使用する自然素材を自分で探してみたくなった ・次回は新たな仲間を募って開催したい <p>自主企画「ゆめすくーる」児童253名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生の対応が親切 ・今後も継続して欲しい ・日程調整や企画立案でボランティア仲間とのコミュニケーションが大変だった 	
	地域連携協力事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンズクエストワークショップ 若手教員等18名 ・国立赤城青少年交流の家主催「あかぎフェスタ」へのクラフトブース出展 ブースでの対応参加児童34名 ・大学生の社会教育学習 教育学部大学生2名 	3団体から申し込み・協力依頼あり(大学1、その他2)	
	団体補助	事務局運営用補助金の交付	5団体	

6 利用者満足度調査等の結果及び対応状況

利用者満足度調査については、①施設利用、②青少年健全育成事業でそれぞれ実施している。

①施設利用

(実施期間)

通年で実施した。

(実施方法・回収率等)

施設利用団体責任者へアンケート調査を実施した。利用団体906団体から347通回答(回答率約38%)

(項目別回答集計)

- ▼性別:男性44% 女性56% 未回答0%
- ▼年代:高校生以下16% 大学生3% 20代6% 30代14% 40代20% 50代29% 60代以上12% 未回答0%
- ▼地域:前橋市内45% 市外28% 県外26% 未回答1%
- ▼利用頻度:初めて31% 週に数回1% 月に数回23% 年に数回39% ほとんど利用しない5% 未回答1%
- ▼職員の対応:満足83% まあ満足13% 普通2% やや不満1% 不満0% 未回答1%
- ▼料金設定:満足61% まあ満足17% 普通9% やや不満0% 不満12% 未回答1%
- ▼利用時間の設定:満足76% まあ満足15% 普通8% やや不満1% 不満0% 未回答0%
- ▼照明の明るさ:満足79% まあ満足14% 普通6% やや不満1% 不満0% 未回答0%
- ▼清潔度:満足67% まあ満足25% 普通6% やや不満1% 不満1% 未回答0%
- ▼使いやすさ:満足66% まあ満足26% 普通6% やや不満1% 不満1% 未回答0%
- ▼案内表示の分かりやすさ:満足77% まあ満足16% 普通6% やや不満1% 不満0% 未回答0%
- ▼安全性:満足69% まあ満足24% 普通7% やや不満0% 不満0% 未回答0%
- ▼総合的な印象:満足79% まあ満足14% 普通7% やや不満0% 不満0% わからない0% 未回答0%
- ▼交通手段:自動車86%、公共交通機関2%、自転車2%、徒歩1%、その他3%、未回答6%
- ▼知ったきっかけ:会館HP 22%、リーフレット5%、事業案内1%、新聞0%、知人39%、その他29%、未回答4%
- ▼利用目的:会議室45%、宿泊31%、主催事業参加1%、その他23%
- ▼利用する際の手続き・申請方法について:便利66%、普通29%、不便0%、未回答5%
- ▼また利用したいか:利用したい96%、どちらともいえない4%、利用しない0%、未回答0%

(利用者からの意見等)

- ・職員の方が大変親切で本当にありがたかった。
- ・公営とは思えない満足度の高さだった。
- ・シーツが部屋に人数分入れてあり、使いやすかった。
- ・洗濯機と乾燥機が使えて、助かった。
- ・歌ったり、楽器を演奏できる部屋が音楽室しかないのは難あり。

(調査結果分析)

総合的な印象では、「満足」と「まあ満足」を合わせて93%、さらに「また利用したい」との回答が96%と高く、利用者から満足度の高い評価を得ている。

(調査結果への対応状況)

(要望)会議室でWi-Fiが使えれば更に便利である。

(対応)大会議室、中会議室、小会議室、多目的学習室にWi-Fiを設置した。

(要望)冷蔵庫があまり冷えていなかった。

(対応)外気温が高温だったことが要因と分析する。エアコンの温度設定を下げ、2台並んでいる冷蔵庫の間隔を離した。

(要望)布団の中に割り箸があり、不快だった。

(対応)レストランが使用できないため、宿泊室で飲食する機会が増えていることが要因と思われる。オリエンテーション等で注意喚起した。

(要望)食堂が利用できるとよかったと思う。

(対応)朝食、夕食が配達可能な業者のリストを作成し、予約受付時とWebで案内した。また、空き会議室等を調整し、食事会場として利用してもらった。

②青少年健全育成事業

(実施期間)

事業後にアンケートを実施した。

(実施方法・回収率等)

事業終了時にアンケート用紙を配布して記入してもらう。参加者、共催者スタッフ、ボランティア352人から回答(回答率100%)

(項目別回答集計)

各事業毎に、感想・応募動機・要望等についての設問を設けて集計し、結果分析を行っている。

(利用者からの意見等)

- ・高校生になってから、ボランティア活動をやりたと思っていたが、コロナの影響でなかなか募集がない中、やっと見つけることができた。(中学生・高校生交流ボランティア体験)
- ・作業に入る前にレクリエーション、完成後の撮影コーナーがあり、ワークショップとして充実していた。丁寧に教えていただき、ありがたい。(親子ふれあい体験教室)
- ・2校連合班で初めて会った人と協力した撮影活動は、はじめは不安だったが交流を深められてよかった。(高校生写真講座)
- ・最初はあまり会話が續かない子でも、根気強く話しかけているとだんだん心を開いてくれて自分から話してくれるようになったので、それが一番嬉しかった(夏休み宿題お助け隊 高校生ボランティア)
- ・お母さんとお茶をつくったのはとても楽しかったし、最初はお茶が苦手だったけど、お母さんがいれてくれたお茶はおいしかったです。(おやこで茶道教室 参加児童)

(調査結果分析)

- ・上記の「利用者からの意見等」にあるように、どの事業に対しても参加者の満足度が高いことが伺える。
- ・アンケートの実施結果は県指定様式の事業報告書に集約し、次年度の事業内容に反映している。

(調査結果への対応状況)

- ・中学生・高校生交流ボランティア体験:新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、日程およびプログラムを変更して実施した。新型コロナの影響により、ボランティア活動の機会が減少傾向である中、ボランティア活動を望む中高生のニーズに応えることができた。
- ・夏休み宿題お助け隊:ボランティア養成として、高校生ボランティアを募集し、宿題の支援と体験活動の補助を行った。ボランティアには丁寧な事前研修を行うことにより、不安を期待に変えた上で活動に取り組むことができた。

(その他苦情・要望等及びその対応状況)

なし

7 管理運営状況の評価 (A:優良、B:良好、C:要努力、D:要改善)

評価項目	総合評価	評価の考え方	評価できる事項及び改善すべき課題
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき青少年健全育成事業に取り組み、利用者の満足度も高く、良好な管理運営状況である。 ・青少年健全育成事業については改善が見られるものの、今一度、「青少年会館」という施設に求められる役割・ニーズに立ち戻り、時代に即した事業を取捨選択して実施するとともに、新たな事業の企画・立案にも注力して、さらなる経営改善・利用者確保に努めていただきたい。 	<p>■評価できる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進む中、施設の維持管理に努め、清潔で快適な状態を維持している。 ・利用者アンケートにおいて職員の対応への評価が高い(満足:83%)。「また利用したい」との回答率は96%にのぼる。 <p>■改善すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の利用者数は、改善がみられるものの、コロナ禍以前と比較するとまだ少ない状況にある。 ・青少年健全育成事業については、事業内容の固定化も散見されるが、令和4年度には新規事業(「目指せ!ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?～」、「おやこで茶道教室」)を企画して実施する等改善が見られた。さらなる改善を期待したい。

(個別項目ごとの評価)

評価項目	評価
平等利用の確保	A
サービスの提供内容	B
管理費用の執行状況	A
管理運営体制	B
法令遵守等	A
労働条件評価の実施	有

評価項目	評価
利用者対応	A
地域貢献	B
環境問題への取組	B
防災対策及び緊急時の対応	A
個人情報保護及び情報公開	A

(参考) 指定管理者の自己評価及び評価委員会の年度評価結果

	総合評価	評価の考え方
指定管理者の自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたが、サービス向上、広報活動の充実等により、年間利用者数は、前年度対比1.5倍に増加した。 ・職員の担当業務の固定化等、管理運営体制について課題がみられるため、改善を図る必要がある。
評価委員会の年度評価	B	<p>県と方向性を良くすり合わせて取り組んでいくことが必要と考えられる。改善をただ試みるだけでなく、なぜ改善が必要なのかを考えてより向上していくことに期待する。</p>